

事務事業名 子どもの読書活動推進事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1632

施策：	05	生涯学習社会の推進	財務コード	01090609-11-584
基本事業：	03	読書活動の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	図書館の年間利用者数 図書館の設備・資料の満足度		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	文化振興・図書館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成23年度 ~		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画		
1. 対象 (誰、何に対して事業を行うのか)			2. 手段 (事務事業の内容、やり方、手順)						
0歳から概ね18歳以下の子どもとその保護者、学校、読書団体			筑紫野市教育振興基本計画に基づき、子どもの読書環境の整備に関する各種事業を実施するもの。 読書活動推進講座：子どもの読書活動の推進を進めていくために、お話会や講演、体験活動などのイベントを毎年開催。 子どもの読書活動関係団体連絡会：読書活動関係団体の連携体制を確立するための会議を平成30年度から開催。						
3. 意図 (この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)									
子どもの読書活動を推進し、健全な育成を図る。									
4. 成果 (簡易評価は未記入)									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
子ども1人当たりの児童書の貸出冊数		冊	27	26.2	27	27			30
学校図書館における1人あたりの貸出冊数		冊	55.8	48.6	57	50			55
5. コスト									
事業費		計	千円	74	1,475	3,771	3,792		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
一般	千円	74	1,475	3,771	3,792				
正職員人工数		人工	0.2	0.2	0.2				
正職員人件費		千円	1,563	1,605	1,676				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	1,637	3,080	5,447	3,792			
6. 成果状況及びコメント (簡易評価は未記入)									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない (停滞・低下)		<状況>市民図書館における子ども1人あたりの児童書の貸出冊数、学校図書館における1人あたりの貸出冊数ともに減少している。 <原因>デジタルコンテンツ等の普及による子どもの読書環境の変化や読書習慣の2極化が、貸出冊数の要因となっていると考えられる。市民図書館については、子ども向けの読書活動推進事業によるイベント等の実施を通じて、貸出冊数の増加に繋げていきたいと考えている。また、学校教育課、学校図書館コーディネーターと連携しながら、学校図書館の環境整備、活用の促進を図っていく。							
7. 評価及びコメント (簡易評価は未記入)									
対象動向	維持	類似事業	あり	以下の取り組みを実施。 ブックスタート：赤ちゃんに絵本をプレゼントする活動。毎月第3火曜日と6月・12月の日曜日に読み聞かせや絵本の配布を実施。 読書講座：市民図書館で読書イベント、講演会、読み聞かせ会などを毎年実施。 学校向け配本サービス：市民図書館の本をすべての小中学校に配本と回収を行うサービスを平成30年12月から開始。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案 (簡易評価は必要な場合のみ記入)				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了	
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用 (維持/事業終了の場合は記入する必要なし)									
全国的に見られる子どもの読書離れ、活字離れが本市においても現れていると考えられる。子どもが読書習慣を身に付け、将来にわたって読書の楽しさを感じることができるよう継続して事業を進めていく必要がある。									
事業開始背景及び現在の環境変化 (市民・議会等の要望)				備考・特記事項 or 進行管理欄					
国の「子どもの読書活動の推進に関する法律」や県の「福岡県子ども読書推進計画」に基づき、平成24年に「筑紫野市子どもの読書活動推進計画」を策定し、平成28年に第二次計画を策定した。令和2年に「子どもの読書推進計画」は、「筑紫野市教育振興基本計画」に包含。				令和6年度からブックスタート事業を「図書館運営事業」から「子どもの読書活動推進事業」に予算の組換えを行う。 令和7年度からブックスタートのフォローアップを行うため、3歳児を対象とした、セカンドブック事業を開始。					